

テーマ：便失禁

教えて
ドクター提供：
イノバセル株式会社

明和病院（西宮市上鳴尾町）
消化器外科 外科医長
岡本亮 先生

便失禁は治療法のある病気 一人で悩まず医療機関に相談を

気が付かないうちに、あるいは意図しないときに便がもれてしまう「便失禁」。他人には相談しにくく、一人で悩みを抱えてしまうことが多いようですが、治療ができる病気なのだそうです。明和病院の岡本亮先生に教えてもらいました。



患者数は約500万人
加齢や出産がリスクに

便失禁はありふれた病気に間に合わない「切迫性」で、国内に約500万人の患者がいるとされています。高齢女性に多いものの、患者層は幅広く、若い世代にもみられます。しかし、ある調査では、医師に相談した人はわずか10%で、約4分の3は誰にも相談できていません。不意にもれることを恐れて外出しなくなる、他人との接触を断ち引きこもってしまうなど生活に大きく影響し、ひいては全身の健康に関わる可能性もあります。

症状は、便意を感じるけれど我慢できずトイレ筋肉を鍛える体操や内服保存的治療で改善も



筋肉を鍛える体操や内服
保存的治療で改善も

一般的な便失禁の治療としては、まず、よい排便のための生活習慣の見直し、お尻の筋肉を鍛える体操や専門的な訓練、便の硬さを調整する薬の内服などを行います。これらの保存的治療によって、約70%の人に改善がみられることが分かっています。

保存的治療の効果が乏しい場合には、いくつかの手術療法もあります。代表的なものが、仙骨神経刺激療法（SNM）といって、心臓ペースメーカーに似た装置を使用し、排泄に関わる神経に電気刺激を与える方法です。約10年前に保険適用となり、刺激を自身で調整で

に間に合わない「切迫性」で、国内に約500万人の患者がいるとされています。高齢女性に多いものの、患者層は幅広く、若い世代にもみられます。しかし、ある調査では、医師に相談した人はわずか10%で、約4分の3は誰にも相談できていません。不意にもれることを恐れて外出しなくなる、他人との接触を断ち引きこもってしまうなど生活に大きく影響し、ひいては全身の健康に関わる可能性もあります。

便失禁

でお悩みの方
治療参加を募集しています。

治療にご興味のある方は、
まずはアンケートにお答えください。

便失禁 アスボ

検索

治療依頼者：イノバセル株式会社

